

冬の旅

串田孫一

私の WINTERREISE. 九州の久住で、ニ、三ヶ月先がサツと見えるほどの吹雪の中を、山頂という一つのすばらしい信仰の目標のようなものを抱いて彷徨を續けたのは私の又の旅だったか、峠から山頂、また雨の峠へと出たこの山旅は、その地方にしては雪の多い時だっただけに、毎日が歌のような光景だった。

た。

(一九五九年)

一年前の正月元旦は雪だった。雨は雪に変わり、積り方が早かった。私は甚のうちに約束していたので、二日の朝、サフザツクに轡轡を用意して出かけ、八王子の八高線の真いフホームで絵画家の大谷一良君と會った。もう一人は興家の三宅修君もそつてあったが、興家下山終んでいたから、あてにはいなかった。結局二人の旅になった。大谷君は私と同じで一人っ子であるが、屠蘇を飲んで、